

Q 1 A君は道徳科の授業中の発言は素晴らしいのですが、日頃の生活態度に課題があります。道徳科の評価をする上で、日頃の生活態度も加味すべきでしょうか？

A 1 道徳科の評価は、道徳科の授業における児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価することになっています。そのため、日頃の生活態度と、道徳科の評価は分けて考えることが必要です。しかし、日々の生活の様子を踏まえ、発言の真意を探る必要があります。また、道徳科の授業での発言が、実際の行動に結び付くような指導改善に努めることが求められます。

Q 2 「個々の内容項目ごとではなく、一定のまとまりの中で評価する」ことになっていますが、特に顕著と認められる具体的な状況を記述する場合には、個々の内容項目について触れても問題ありませんか？

A 2 道徳科の評価は、1つ1つの内容項目ごとに、どれくらい理解したかということの評価するものではなく、道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるようになったかや、道徳的価値を自分自身との関わりで深めようとしていたかといったことを、年間や学期など一定のまとまりの中で、評価するものです。

なお、一定のまとまりの中で評価した結果として、特に顕著と認められる点が発揮された内容項目に係る授業について、評価の中で触れることはできると考えられます。

Q 3 発達障害のある児童生徒の評価をする際、留意することはどんなことですか？

A 3 発達障害のある児童生徒に対しては、まずは、一人一人の困難さをしっかり把握することが重要です。その上で、例えば、他者の心情を理解するために役割を交代して動作化や、劇化をしたり、見通しを持ちやすくするために、ルールを明文化したりするなどの指導上の工夫が必要です。そのような指導を行った結果として、多面的・多角的な見方へ発展させているか、道徳的価値を自分のこととして捉えているかなどについて、丁寧に見取ることが必要です。

問い合わせ先 岡山県教育庁義務教育課
〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6
電話(086)226-7584(直通) FAX(086)224-3035

特別の教科 道徳 評価の手引き

はじめに

小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から、「特別の教科 道徳」が全面実施となります。学習指導要領には、



©ももっち うらっち
岡山県マスコット

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

出典：小学校学習指導要領 平成29年3月 文部科学省「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4 ※（ ）は中学校

とあり、道徳科においても「評価」を行い、指導要録に記載する必要があります。

本リーフレットは「特別の教科 道徳」における「評価」に焦点を当て、評価の意義や視点、方法についてまとめています。

全面実施までに、各学校においても共通理解していただき、適切に実施してください。

1 道徳科における評価の意義

□ 児童生徒の道徳性に係る成長を促すこと

教師と児童生徒との人格的な触れ合いによる共感的な理解を基盤とし、教師が児童生徒の人間的な成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、児童生徒が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるよう、評価を行います。

□ 教師自らの指導の改善を図ること

道徳科の評価において、指導の効果を上げるためには、指導計画の下に、目標に基づいて教育実践を行うとともに、指導のねらいや内容に照らして児童生徒の学習状況を把握し、その結果を踏まえ、学校としての取組や教師が自らの指導について改善を図るため、評価を行います。

2 道徳科における評価の視点

道徳科の目標

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、**自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、**自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

※（ ）は中学校

学習活動

〔例〕
○教材の登場人物の心情を自分と比べながら共感的に迫及する。
○役割演技を通して、登場人物の心情を自分のこととして考える。
○自分を振り返って成長を実感したり、課題を見付けたりする。

〔例〕
○ワークシートなどを使って、自分の考えを明確にして話し合う。
○ペアや少人数グループなどで多様な考えを出し合いながら話し合う。
○複数の道徳的価値が対立する題材を用いて討論を行う。

評価の視点

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

具体的な視点

〔例〕
○教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか。
○これまでの自分を振り返り、自らの行動や考えを見直そうとしているか。
○道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論し、道徳的価値の理解を深めているか。
○道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているか。

〔例〕
○道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしているか。
○自分と違う立場や考え方、感じ方を理解しようとしているか。
○複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしているか。

※評価の具体的な視点は、いずれも例示であり、学校の状況や児童生徒一人一人の状況を踏まえて工夫をすることが大切です。

道徳科の目標と、学習活動、評価を結び付けて考えることが大切です。



3 道徳科における評価の方法

評価の基本的な考え方

□ 個人内評価として記述式で行う

道徳科において養うべき道徳性は、児童生徒の人格全体に関わるものであり、数値などによって不用意に評価してはならないものです。よって、他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人内評価**として**記述式**で行います。

□ 一定のまとまりの中で評価する

感想をそのまま書いただけであった児童生徒が、学習を重ねていく中で、教材の登場人物の心情を自分に置きかえて考えたり、話し合いによって深まった考えを書くようになってきたりするなど、1単位時間の授業だけでなく、**年間や学期といった一定のまとまりの中で**、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に見取ります。

評価のための具体的な工夫

□ ノート、ワークシート、感想文等のファイル

児童生徒の学習の過程や成果などの記録を取りためておいたものを見直すことで、一定期間での成長や変容を見取ることができ、評価に活用することができます。

□ エピソード

児童生徒の発言や活動の様子などのエピソードを記録し、累積したものを評価に活用することができます。

□ 観察

発言や記述が苦手な児童生徒の様子を観察したり、意図的に指名したりして、評価できる根拠を集めることで、評価に活用することができます。

《評価する上での留意点》

✓ 観点別評価は妥当ではない

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度のそれぞれについて分節し、学習状況を分析的に捉える観点別評価は、道徳科の評価としては妥当ではありません。

✓ 個々の内容項目ごとに評価しない

個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とし、年間や学期といった一定のまとまりの中で、道徳科の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取ります。

✓ 学校として組織的、計画的に評価する

道徳科の評価の在り方や評価の方法などを、学校や学年で共有し、評価結果についても教師間で検討するなど、組織的、計画的に評価します。

✓ 調査書に記載しない

道徳科の評価は、児童生徒がいかに成長したかを積極的に認め励ますための個人内評価であり、客観性・公平性が求められる入学者選抜にはなじまないものです。そのため、調査書には記載せず、合否判定に活用することのないようにします。